The Monthly Journal of MEXT
FEBRUARY 2020
No.244
3

文部科学広報

文部科学省 編集

文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

尾道水道が紡いだ
中世からの箱庭的都市

JAPAN HERITAGE
日本遺産

一輪の綿花から始まる倉敷物語
～和と洋が織りなす繊維のまち～

JAPAN HERITAGE
日本遺産

特集
日本遺産

◆ MONTHLY LINE UP

令和元年度全国いじめ問題子供サミット / 令和元年度全国学校給食週間 / みらプロ2020が始まります /
令和元年度「家庭教育支援チーム」文部科学大臣表彰式、全国家庭教育支援研究協議会を開催

The Monthly Journal of MEXT
文部科学広報
2020年 3 月号 / No.244

特集

日本遺産 …… 1

文化庁文化資源活用課

日本遺産とは …… 1

文化庁の取組について …… 4

日本遺産の日について …… 5

日本遺産認定一覧 …… 6

文部科学省FLASH

令和元年度全国いじめ問題子供サミット …… 8

令和元年度全国学校給食週間 …… 10

みらプロ2020が始まります …… 13

令和元年度「家庭教育支援チーム」文部科学大臣表彰式、全国家庭教育支援研究協議会を開催 …… 15

特集

日本遺産

文化庁文化資源活用課

日本遺産は、地域の風土や特色を示すストーリーを認定し、ストーリーを体感できる文化財群を整備・活用し、戦略的に発信することを推進しています。令和元年度の認定で、46の道府県に83のストーリーが広がっています。

日本遺産とは

文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざして世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をまとめ、これらを活用していくためには、人材育成・伝承、環境整備、情報発信などの取組を効果的に進めていくことが重要です。

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援しています。

日本遺産は、既存の文化財の価値づけや保存のための新たな規制を目的とせず、日本遺産を構成する文化財群を発信・活用することで、地域の活性化を図ることを目的とする事業です。その点において、世界遺産や文化財の指定とは異なります。

点在する文化財を「面」として魅力的に活用・発信するための日本遺産事業の方向性は三つに集約できます。

①地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化

②地域全体としての一体的な整備・活用

③国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

このような方針を土台として認定するストーリーには次の三つの内容が求められています。

①歴史的経緯や地域の風習に根ざし、世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたものであること。

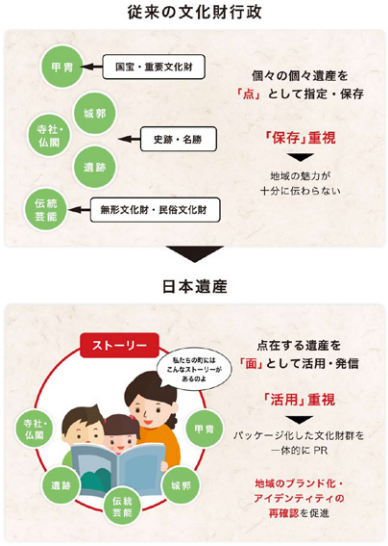
②ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定し、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものを据えること。

③単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと。

日本遺産の認定は、年に1回、文化庁が都道府県を通して公募しています。ストーリーには、単一の市町村内でストーリーが完結する「地域型」と、複数の市町村にまたがってストーリーが展開する「シリアル型」があります。申請に当たっては次の要件を設定しています。

①申請者は市町村とし、シリアル型の場合は原則市町村の連名とする。当該市町村が同一都道府県内にある場合は都道府県が申請者となることができます。

②ストーリーを構成する文化財群は、有形・無形のあらゆる文化財が対象で、国指定・選定の文化財を必ず一つを含んだ上で、都道府県指定や市区町村指定、さらには法令・条例で指定されて



ストーリー名：藍のふるさと 阿波
構成文化財：美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区

ストーリー名：日本海の風が生んだ絶景と秘境
構成文化財：鳥取砂丘、因幡の麒麟獅子舞

いない文化財を含めることが可能です。

③「地域型」で申請する場合は、文化財保存活用地域計画や、歴史文化基本構想、歴史的風致維持向上計画を策定済みの市町村、又は、世界文化遺産一覧表記載の構成資産もしくは世界文化遺産暫定一覧表記載・候補案件の構成資産を有する市町村であることが必要です。さらに、世界文化遺産・世界文化遺産暫定一覧表記載・候補案件の構成資産がストーリーの構成文化財として含まれることが条件となっています。

このような要件を具備した申請は、文化庁に設置する外部有識者で構成する「日本遺産審査委員会」で次の審査基準に照らして審査します。

①ストーリーの内容が当該地域の際立った歴史的特徴・特色を示すものであるとともに、我が国の魅力を十分に伝えられるものとなっていること。具体的には、（1）～（5）の観点から総合的に判断しています。

（1）興味深さ　人々が関心を持ったり惹きつけられたりする内容となっている。

（2）斬新さ　あまり知られていなかった点や隠れた魅力を打ち出している。

（3）訴求力　専門的な知識がなくても理解しやすい内容になっている。

（4）希少性　他の地域ではあまり見られない稀有な特徴がある。

（5）地域性　地域特有の文化が現れている。

②日本遺産という資産を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、実現に向けた具体的な方策が適切に示されていること。

③ストーリーの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域の活性化の推進が可能となる体制が整備されていること。

審査基準①はストーリー等に関することで、②③は地域活性化計画を審査するものです。これらを記載した申請書を、「日本遺産審査委員会」の審査結果を踏まえて、文化庁が認定します。認定されたストーリーを活かした取組を、文化庁が最大3年間支援するとともに、6年間の地域活性化計画期間終了後には総括評価を行うことになっています。

各年度の認定件数と申請件数は次のとおりです。

- 平成27年度　認定件数18件・申請件数83件
- 平成28年度　認定件数19件・申請件数67件
- 平成29年度　認定件数17件・申請件数79件
- 平成30年度　認定件数13件・申請件数76件
- 令和元年度　認定件数16件・申請件数72件

日本遺産は世界文化遺産の構成資産や国指定・地方の指定・未指定文化財等を含み、地域の総合的な文化財を活用し発信する事業であり、令和元年度の認定で、全国46道府県に83のストーリーが所在しています。

令和元年度は、岩手県・鹿児島県・沖縄県で日本遺産が初めて認定されました。北海道の『「本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～』から沖縄県の『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』まで21道府県に所在する16のストーリーが認定されました。これにより、兵庫県内に8つ、岡山県内に6つ、京都府・大阪府・和歌山県・島根県・広島県内に5つのストーリーが展開することとなりました。

関東

24……江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
23……「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
41……和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田
57……地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～
70……里沼（SATO-NUMA）
—「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた船林の沼辺文化—
1……近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－
2……かかあ天下ぐんまの絹物語－
23……「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」
—佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた
江戸近郊の四つの代表的町並み群—
35……鎖守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴　～日本近代化の躍動を体感できるまち～
53……明治貴族が描いた未来　～那須野が原開拓浪漫譚～
62……旅人たちの足跡残る悠久の石畳道 —箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路

北海道

38……江差の五月は江戸にもない　—ニシンの繁栄が息づく町—
39……荒波を越えた男たちの夢が詰いだ異空間　～北前船寄港地・船主集落～
55……カムイと共に生きる上川アイヌ ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
66……本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～

中部

3……加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡－人、技、心－
6……「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
27……「珠玉と歩む物語」小松　～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
29……飛騨匠の技・こころ　—木とともに、今に引き継ぐ1300年—
32……宮大工の聖一丁から生まれた木彫刻美術館・井波
72……江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町 有松～
4……灯り舞う半島　能登　～熱狂のキリコ祭り～
5……海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国（みけつくに）若狭と街道～
24……「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化
26……木曽路はすべて山の中—山を守り　山に生きる～
39……荒波を越えた男たちの夢が詰いだ異空間　～北前船寄港地・船主集落～
50……きっと恋する六古窯　—日本生まれ日本育ちのやきもの産地—
60……葡萄畑が織りなす風景－山梨県峡東地域－
61……星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—
62……旅人たちの足跡残る悠久の石畳道 —箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路
71……400年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～
74……1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～

東北

40……サムライゆかりのシルク　日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ
19……政宗が育んだ“伊達”な文化
20……自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』
～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
21……会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～
22……未来を拓いた「一本の木路」－大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡　郡山・猪苗代－
39……荒波を越えた男たちの夢が詰いだ異空間　～北前船寄港地・船主集落～
56……山寺が支えた紅花文化
69……みちのくGOLD浪漫—黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる－

九州

16……古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
1……近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－
17……国境の島　壱岐・対馬・五島　～古代からの架け橋～
18……相良700年が生んだ保守と進取の文化
～日本でもっとも豊かな隠れ里—人吉球磨～
35……鎖守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴　～日本近代化の躍動を体感できるまち～
37……日本磁器のふるさと　肥前　～百花繚乱のやきもの散歩～
52……関門“ブスタルジック”海峡　～時の停車場、近代化の記憶～
53……米作り、二千年にわたる大地の記憶　～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～
54……やばけい遊覧—大地に描いた山水絵巻の道をゆく
65……鬼が仏になった里「くにさき」
67……古代人のモニュメント －台地に絵を描く　南国宮崎の古墳景観－
73……薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～

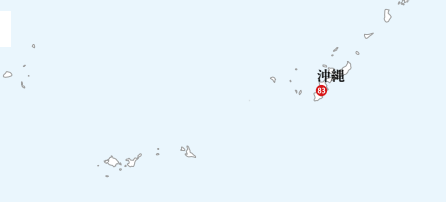
関西

7……祈る皇女斎王のみやこ　斎宮
10……丹波篠山　デカンショ節　–民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶–
47……「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地　紀州湯浅
49……一輪の綿花から始まる倉敷物語　～和と洋が織りなす繊維のまち～
63……「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～
75……旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—
76……中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～
77……「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂
8……琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産
9……日本茶800年の歴史散歩
11……日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～
30……「古事記」の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～
31……森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～
32……鯨とともに生きる
35……鎖守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴　～日本近代化の躍動を体感できるまち～
59……荒波を越えた男たちの夢が詰いだ異空間　～北前船寄港地・船主集落～
62……忍びの里　伊賀・甲賀—リアル忍者を求めて—
43……300年を紡ぐ組が織り成す丹後ちりめん回廊
44……1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～
45……播但貫く、銀の馬車道　銚石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～
46……絶景の宝庫　和歌の浦
50……きっと恋する六古窯　—日本生まれ日本育ちのやきもの産地—
73……海女（Ama）に出逢えるまち 鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち
74……1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～
78……日本海の風が生んだ絶景と秘境—幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」

中国・四国

12……六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～
13……津和野今昔～百景図を歩く～
14……尾道水道が詰いだ中世からの箱庭的都市
48……日が沈む聖地出雲　～神が創り出した地の夕日を巡る～
49……一輪の綿花から始まる倉敷物語　～和と洋が織りなす繊維のまち～
65……瀬戸の夕凪が誘う　国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む朝の道～
1……近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－
15……「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～
33……地蔵信仰が育んだ日本最大の大山生馬市
34……出雲國たたら風土記　～鉄づくり千年が生んだ物語～
35……鎖守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴　～日本近代化の躍動を体感できるまち～
36……“日本最大の海賊”の本拠地・芸予諸島
–よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶–
39……荒波を越えた男たちの夢が詰いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～
50……きっと恋する六古窯　—日本生まれ日本育ちの焼きもの産地—
51……森林鉄道から日本一のゆずロードへ
–ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化–
52……関門“ブスタルジック”海峡　～時の停車場、近代化の記憶～
64……「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～
78……日本海の風が生んだ絶景と秘境—幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」
79……神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～
80……知ってる?!悠久の時が流れる石の島～海を越え、日本の鬼を築いた せとうち鬼退治譚～
81……藍のふるさと　阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～

沖縄



83……琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」

● 地域型
● シリアル型

また、「日本遺産審査委員会」では、日本遺産の認定内容の変更も審査しています。令和元年度は、10のストーリーで構成文化財の追加や説明の追加などについて審査しました。「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」（平成29年度認定）では、山形県鶴岡市などの7市町が新たに加わり、北前船に関する広がりや構成文化財を充実させました。「山寺が支えた紅花文化」（平成30年度認定）では、山形県白鷹町、大石田町が加わり、ストーリーの内容を補うとともに、構成文化財の所在範囲を広げました。日本遺産に認定された地域では、認定後も、新たな文化財の確認等により、関係自治体や構成文化財が追加され、認定ストーリーの更なる充実に努めています。

日本遺産は2020年度までに100件程度の認定を目指しています。令和2年度には当初の目的の達成が見込まれることから、令和2年度の新規認定募集をもって当面最後とすることにしています。

文化庁の取組について

文化庁は、認定地域の取組の支援を行っているほか、次の事業を実施しています。

日本遺産フォローアップ委員会は、日本遺産に係る取組について、PDCAサイクルに基づく事業の促進を図るために、日本遺産認定地域の取組状況を確認し、実施及び計画事業、目標やその達成状況等について審議し、各認定地域における日本遺産の推進を図っています。

認知度向上に対する取組としてこれまで、日本遺産大使の任命、日本遺産ポータルサイトでの情報発信、ロゴマークの作成等を実施しています。

日本遺産大使は、日本遺産の周知のため、文化庁が日本遺産を国内外に広く広報するに当たって協力いただく著名人に任命しています。大使には、文化庁が行う広報媒体や各種イベント等への参加を依頼するとともに、大使自らの情報発信などを行っていただいております。

日本遺産に関する様々な情報を一括して発信する日本遺産ポータルサイト（https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/）を構築しています。日本遺産について、認定ストーリーの一覧や地域別一覧、認定ストーリーの内容を紹介するとともに、認定地域が日本遺産に係る事業の告知等を掲載し、総合的な情報発信を実施できるように、地域のイベント情報や、宿泊先、お土産・グルメ、みどころ、名産品を掲載できるようにしています。このほか、令和元年度は、より外国人目線で日本遺産を紹介するウェブサイト（https://www.japan.travel/japan-heritage/）の構築を行っております。

日本遺産であることを表示するロゴマークを作成し、認定地域とともに、パンフレットや案内板等に掲載しています。日本遺産ロゴマークは、グラフィックデザイナーの佐藤卓氏によるもので、日の丸は日本を表し、その下にはJAPAN HERITAGEの文字を縦格子のような繊細な線の集合として表現しています。この線の集合は、ひとつの「面」を形づくり、文化財をストーリーで面としてまとめる「日本遺産」を表しています。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産ロゴマーク

マスメディアでは、日本遺産を巡る旅番組「じょんのび日本遺産」（TBSテレビにて放送）と文化庁のタイアップ企画を実施しています。日本人も見逃しがちな「日本の美」の再発見を通じ、多くの人に改めて日本各地の歴史的魅力と日本文化のすばらしさを認識してもらうことが目的で、「じょんのび」とは、新潟地方の方言で「ゆったり、のんびり」という意味です。日本遺産大使のナタリー・エモンズ氏などの著名人が、国際的な視点等から日本遺産の魅力を伝えています。

また、認定地域における日本遺産の理解を深めるために日本遺産サミットを平成29年度から実施

日本遺産ブース（ツーリズムEXPOジャパン）

日本遺産の日記念シンポジウム（有楽町よみうりホール）

日本遺産の日関連イベントステージ・PRブース（有楽町駅前広場）

しています。令和元年度は高知市で開催し、認定地域の出展や一般に向けた講演を実施しました。エクスカーションや認定地域間、民間事業者との情報交換の場を設けて、ブランド力の向上に努めています。

また、観光業界関係者との商談やプロモーションを目的に、ツーリズムEXPOジャパンに、平成29年度から日本遺産として出展しています。「ツーリズムEXPOジャパン2019」は、10月24日から27日にかけてインテックス大阪で開催されました。日本遺産の全83の認定ストーリーを映像やパネル展示で紹介したほか、8つのストーリーの紹介ブースを設けて、PRや商談を実施しました。10月26日・27日の一般公開日では、日本遺産ブースに来場した方々に、日本遺産関連の記念品等をカプセルマシーンで配布し、好評を博しました。

日本遺産の日について

文化庁と日本遺産連盟（※）は、さらなる日本遺産に理解と関心を高めるとともに、各地域における取組のより一層の充実を図るために、2月13日を「日本遺産の日」と定めました。令和元年度は、令和2年2月13日に、有楽町よみうりホールで日本遺産の日記念シンポジウムを開催し、2月11日～2月13日まで、有楽町駅前広場周辺で、各認定地域が、日本遺産のストーリーに触れることができるブースを出展しました。

記念シンポジウムは、「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」（令和元年度認定）のストーリーの構成文化財である「石見神楽」の演目「大蛇（おろち）」が益田市石見神楽神和会によって実演されて開幕し、日本遺産大使であるマーティ・フリードマン氏（ギタリスト）、三國清三氏（料理人）を紹介するとともに、新たな大使として、EXILE ÜSA氏（ダンサー）、大倉正之助氏（能楽師）、ナイツ（漫才師）が任命されました。その後、ナイツのスペシャル漫才が披露され、トークセッションでは、里中満智子氏（漫画家）、ナイツ（漫才師）、橋本徹氏（株式会社ほわっと）、堀井雄二氏（ゲームデザイナー）が、日本遺産の魅力や楽しみ方などについて語りました。記念シンポジウムの様子は、ウェブ上で生配信し、会場に来られない方々にも視聴いただきました。現在も日本遺産ポータルサイトのスペシャルコンテンツで閲覧することができます。

有楽町駅前広場周辺で実施したPRイベントには、全国から55の認定ストーリーの出展があり、各ブースでは、物販・飲食・試食や、ストーリーにまつわる体験ができ、中央ステージでは、認定地域の方々が魅力を伝え、各地のゆるキャラが登場しました。日本遺産を体感し、楽しめる場となり、賑わいました。日本遺産の日関連イベントには、首都圏内の多くの方々が来場し、日本遺産の認知度を高めることができました。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、今後更なるインバウンド増が見込まれる中、観光資源である「日本遺産」に大きな期待が寄せられています。文化庁ではストーリーの掘り下げ、現地の受入れ体制の強化等の整備・充実、連携

した情報発信を通じて、地域の活性化や観光拠点としてのさらなる磨き上げに努めていきます。

（※）日本遺産連盟は、全国各地の日本遺産認定地域等から構成する団体です。日本全国に点在する日本遺産のストーリーを国内外に向けて積極的に情報発信するなど、文化庁等ともに連携しながら日本遺産のブランド力向上を図ることを目的に設立されました。

日本遺産認定一覧

平成27年度認定

1 近世日本の教育遺産群―学ぶ心・礼節の本源―（栃木県・茨城県・岡山県・大分県）。2 かかあ天下―ぐんまの絹物語―（群馬県）。3 加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡―人、技、心―（富山県）。4 灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～（石川県）。5 海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～（福井県）。6「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜（岐阜県）。7 祈る皇女斎王のみやこ 斎宮（三重県）。8 琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産（滋賀県）。9 日本茶800年の歴史散歩（京都府）。10 丹波篠山デカンショ節―民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶―（兵庫県）。11 日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～（奈良県）。12 六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～（鳥取県）。13 津和野今昔～百景図を歩く～（島根県）。14 尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市（広島県）。15「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～（愛媛県・高知県・徳島県・香川県）。16 古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～（福岡県）。17 国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～（長崎県）。18 相良700年が生んだ保守と進取の文化～日本でもっとも豊かな隠れ里―人吉球磨～（熊本県）

平成28年度認定

19 政宗が育んだ"伊達"な文化（宮城県）。20 自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2，446段の石段から始まる出羽三山～（山形県）。21 会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～（福島県）。22 未来を拓いた「一本の水路」―大久保利通"最期の夢"と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代―（福島県）。23「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」―佐倉・成田・佐原・銚子・百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群―（千葉県）。24 江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～（神奈川県）。25「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～（神奈川県）。26「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化（新潟県）。27『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～（石川県）。28 木曽路はすべて山の中～山を守り 山に生きる～（長野県）。29 飛騨匠の技・こころ―木とともに、今に引き継ぐ1300年―（岐阜県）。30『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～（兵庫県）。31 森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地"吉野"～（奈良県）。32 鯨とともに生きる（和歌山県）。33 地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市（鳥取県）。34 出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～（島根県）。35 鎮守府横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～（広島県・神奈川県・長崎県・京都府）。36 "日本最大の海賊"の本拠地：芸予諸島―よみがえる村上海賊"Murakami KAIZOKU"の記憶―（愛媛県・広島県）。37 日本磁器のふるさと 肥前～百花繚乱のやきもの散歩～（佐賀県・長崎県）

平成29年度認定

38 江差の五月は江戸にもない―ニシンの繁栄が息づく町―（北海道）。39 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～（北海道・青森県・秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県・福井県・京都府・大阪府・兵庫県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・香川県）。40 サムライゆかりのシルク日本近代化の原風景に出会うまち 鶴岡へ（山形県）。41 和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田（埼玉県）。42 忍びの里 伊賀・甲賀―リアル忍者を求めて―（滋賀県・三重県）。43 300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊（京都府）。44 1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～（大阪府・奈良県）。45 播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73㎞の轍～（兵

庫県）。46 絶景の宝庫 和歌の浦（和歌山県）。47「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅（和歌山県）。48 日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～（島根県）。49 一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～（岡山県）。50 きっと恋する六古窯―日本生まれ日本育ちのやきもの産地―（岡山県・福井県・愛知県・滋賀県・兵庫県）。51 森林鉄道から日本一のゆずロードへ―ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化―（高知県）。52 関門〝ノスタルジック〟海峡～時の停車場、近代化の記憶～（福岡県・山口県）。53 米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～（熊本県）。54 やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～（大分県）

平成30年度認定

55 カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～（北海道）。56 山寺が支えた紅花文化（山形県）。57 地下迷宮の秘密を探る旅～大谷石文化が息づくまち宇都宮～（栃木県）。58 明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～（栃木県）。59 宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波（富山県）。60 葡萄畑が織りなす風景―山梨県峡東地域―（山梨県）。61 星降る中部高地の縄文世界―数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅―（長野県・山梨県）。62 旅人たちの足跡残る悠久の石畳道―箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路―（静岡県・神奈川県）。63「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～（和歌山県）。64「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～（岡山県）。65 瀬戸の夕凪が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦～（広島県）。66 鬼が仏になった里「くにさき」（大分県）。67 古代人のモニュメント―台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観―（宮崎県）

令和元年度認定

68 本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～（北海道）。69 みちのくＧＯＬＤ浪漫―黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる―（宮城県・岩手県）。70 里沼（ＳＡＴＯ-ＮＵＭＡ）―「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化―（群馬県）。71 ４００年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり越前・福井～（福井県）。72 江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町 有松～（愛知県）。73 海女（Ａｍａ）に出逢えるまち 鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち～（三重県）。74 １３００年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～（滋賀県・岐阜県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県）。75 旅引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根荘の風景―（大阪府）。76 中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～（大阪府）。77「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂（兵庫県）。78 日本海の風が生んだ絶景と秘境―日本海の風が生んだ絶景と秘境幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」（鳥取県・兵庫県）。79 神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～（島根県）。80 知ってる!? 悠久の時が流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いたせとうち備讃諸島～（岡山県・香川県）。81 藍のふるさと 阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～（徳島県）。82 薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～（鹿児島県）。83 琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」（沖縄県）

令和元年度 全国いじめ問題子供サミット

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

令和２年１月25日（土）、文部科学省講堂にて、全国各地から１４６名の小・中学生が集い、萩生田文部科学大臣出席のもと、タレントの高橋みなみさんをゲストに迎え、今回で６回目となる「全国いじめ問題子供サミット」を開催しました。

はじめに

１月25日（土）、全国各地から１４６名の小・中学生が集い、「私たちが考える『令和の時代のいじめ対策』」をテーマとして、文部科学省講堂にて、「令和元年度全国いじめ問題子供サミット」を開催しました。

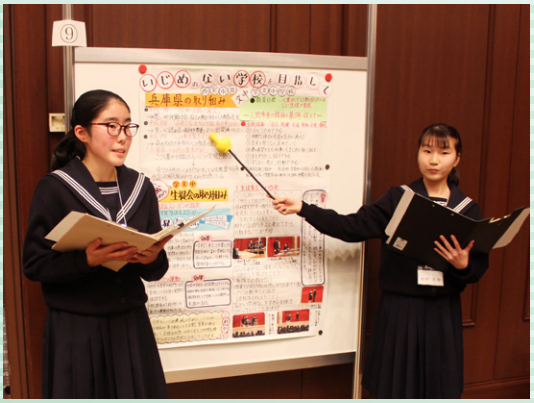
いじめは、どの子供にも、どの学校でも、起こり得る問題であり、子供たちの中でいじめに関する意識を高め、自らいじめの問題に取り組んでいくことが、いじめの未然防止、早期解決に効果的です。

本サミットは、いじめ問題に主体的、積極的に取り組んだ地域や学校の児童生徒が集い、交流することを通じて、このような活動の中心となるリーダーを育成するとともに、全国各地で創意工夫を凝らした多様な取組の一層の推進につなげることを目的としています。

ポスターセッションについて

午前は、大濱児童生徒課長の挨拶の後、全国各地で実践されたいじめ対策に関するポスターセッションを行い、出席者全体で成果等を共有しました。

具体的には、いじめ傍観者について考えるいじめ防止授業における取組、いじめゼロＣＭ・ショートムービー・キャラクターづくりやいじめスローガンの作成を中心とした取組、寸劇を通していじめについて考える取組等、自ら直面する問題として実感できる工夫が凝らされた様々な取組が全42地域から紹介され、出席者の間で活発な質疑応答が交わされました。



ポスターセッションでの発表の様子

グループ協議の様子

グループ協議について

午後は、本サミットのテーマ「私たちが考える『令和の時代のいじめ対策』」のサブテーマとして設定した、「なぜいじめは起こるのか考えよう。また、いじめが起こらないようにするためにはどうしたらよいのか考えよう。」や「いじめられている仲間のために何ができるか考えよう。」についてグループ協議を行いました。

協議の中では、いじめが起こる原因としては「やってはいけないことを理解していない」「些細（ささい）ないじりあいやすれ違いがきっかけとなっている」、また、いじめの防止策としては「傍観者がいじめ問題に関わる」「法律などから、いじめの定義を学校全体の共通認識にする」などの意見がありました。また、傍観者にならず、仲間のためにできることとしては「気軽に相談できる居場所をつくり、互いに悩みを共有する」、「正義のちくり（悪いことを先生に言う）を行う」などの意見が出されました。

全体交流について

全体交流に先立ち、萩生田文部科学大臣から「身近な経験から、主体的に考え、問題を解決していく姿勢を大切にしてほしい。」「考え、議論する道徳の中でもいじめについて考え、『何が問題なのか』『自分ならばどうするか』という視点で実際の行動に移してほしい。」「今日学んだ成果を持ち帰って、それぞれの学校や地域でも広めてほしい。」という挨拶がありました。

萩生田文部科学大臣による視察

全体交流では、児童生徒が司会を務め、グループ協議で話し合った内容について発表しました。

全体交流を通して、令和の時代のいじめ対策について議論を交わし、欠かせない対策のポイントとして「いじめの定義を知り、お互いを認め合う」、また、新たな対策のアイディアとして「相談場所を作る」という内容を本サミットのまとめとして確認しました。

その後、サミットの特別ゲストとして参加した、タレントの高橋みなみさんから全体交流を踏まえた講評があり、「クラスの中でお互いをよく知ることが、いじめを減らすことにつながるのではないか。」という感想を全体に投げかけていただきました。

最後に、ＮＨＫいじめを考えるキャンペーンソング「あの空」を出席者全員で合唱し、いじめ問題へ一丸となって取り組むことを確認し合いました。

今後、出席した子供たちが、いじめ問題解決のリーダーとして、それぞれの地域に帰り、サミットの成果を全国に広めてくれることを願っています。

高橋みなみさんからの講評

おわりに

子供たちが、いじめが起こる原因や防止策、そして仲間のためにできることを考えることは、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養うことにもつながると考えています。

今回のサミットで児童生徒の考えたいじめ対策を、全国の学校でも共有し、これからのいじめ防止対策に積極的に反映していただきたいと思っています。

また、全国の児童生徒が、安心、安全な学校環境の下で心豊かに充実した学校生活が送れるよう、引き続きいじめ問題に取り組んでまいります。

なお、サミットの模様については、YouTube文部科学省チャンネル「全国いじめ問題子供サミット」にて公開しています。是非御覧ください。

https://youtu.be/XXfhhPIrDT4

「あの空」の合唱の様子

令和元年度全国学校給食週間

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

文部科学省では、学校給食の意義や役割等についての理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実発展を図ることを目的に、毎年1月24日から30日までの1週間を全国学校給食週間と定めています。

全国学校給食週間

我が国における学校給食は、明治22年に始まって以来、各地に広がっていきましたが、戦争の影響などによって中断されました。

戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和22年1月から学校給食が再開（「学校給食実施の普及奨励について」昭和21年12月11日文部、厚生、農林三省次官通達）されました。

同年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と定めました。昭和26年から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「全国学校給食週間」とし、全国の学校や教育委員会において学校給食に関する様々な行事が行われています。

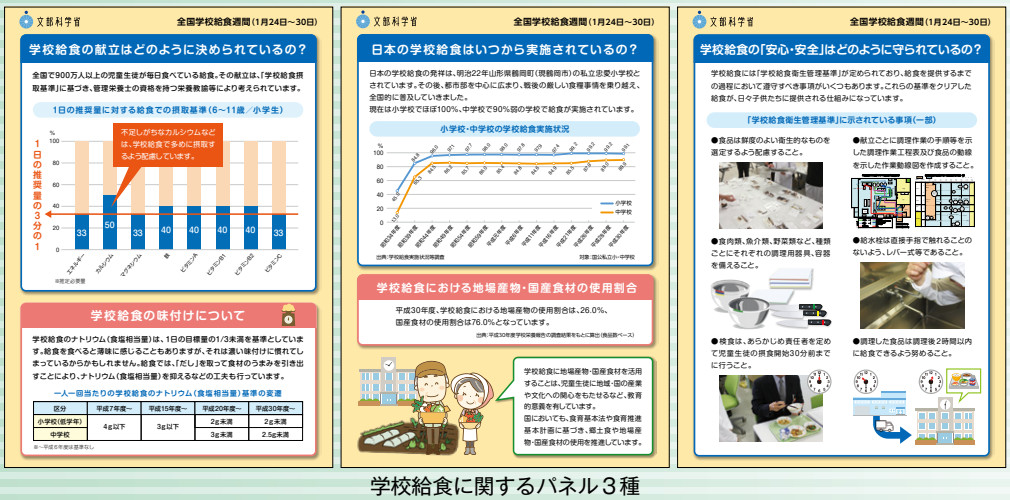
学校給食の役割

子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のため、栄養バランスのとれた豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることはもちろんのこと、食に関する指導を効果的に進めるための教材として活用することができるなど、重要な役割を担っています。

学校給食については、昭和29年に「学校給食法」が制定されて学校給食の法的根拠が明確になり、教育活動として実施されてきました。学校給食法は、平成20年6月に大幅改正され、「学校における食育の推進」が新たに規定されました。学校給食の教育的効果を引き出し、学校における食育を推進するという趣旨がより明確になりました。

学校給食に関するパネル展示

令和元年度の全国学校給食週間の期間中、文部科学省では、学校給食の栄養管理や歴史等について紹介したパネルを作成し、文部科学省のエントランスや情報ひろばに展示しました。



学校給食に関するパネル３種

ツイッターやユーチューブを活用した広報

学校給食の意義や役割等について理解と関心を深めることを目的に、1月24日（金）～30日（木）の5日間において、文部科学省公式ツイッターアカウントによる各地の学校給食の献立の紹介や、ユーチューブ広告による全国学校給食週間の広報動画の配信を行い、当該期間の動画再生回数は40万回を超えました。

全国学校給食週間広報動画

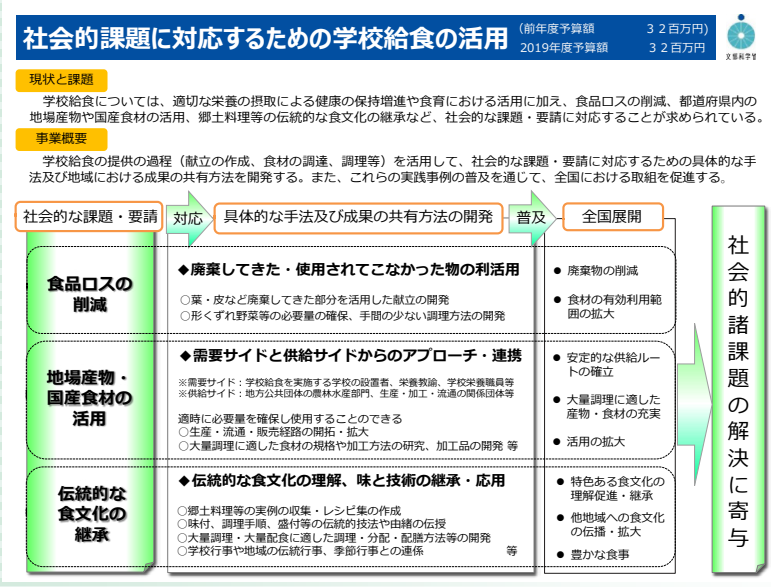
学校給食の献立紹介

学校給食・食育総合推進事業事例発表会

1月29日（水）に、全国の教育委員会の担当者等約90名が集まり、令和元年度「社会的課題に対応するための学校給食の活用事業」と「つながる食育推進事業」の取組について発表を行い、出席者との質疑応答等を通じて、取組事例とその成果について情報共有しました。

○「社会的課題に対応するための学校給食の活用事業」

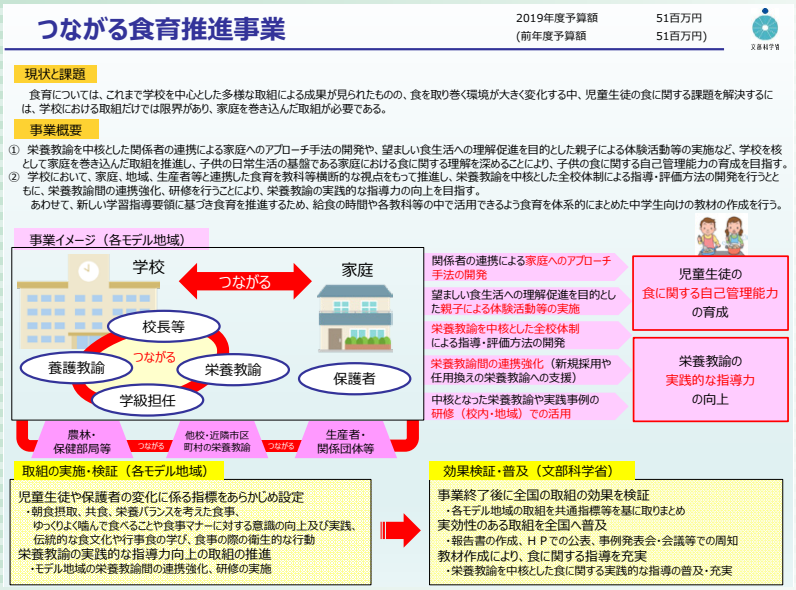
- 玉ねぎやトマト等規格外農作物の加工品開発による食品ロスの削減や、キャベツやグリンピースの収穫体験等を通じて生産者と連携し、地場産物の活用率向上に取り組んだ事例（静岡県袋井市）
- 郷土料理の塩分使用量が比較的高いことを課題と捉え、特別支援学校において、減塩に向けた献立作成及び調理方法の研究に取り組み、併せて地場産の食材の活用割合の向上にも取り組んだ事例（奈良県）
- 商品として流通できない多くの規格外農作物が捨てられている現状から、地域の生産者の協力のもと、廃棄される人参やブロッコリー等規格外農作物の収穫及び加工品開発を行い、地産地消及び食品ロスの削減に取り組んだ事例（徳島県）



○「つながる食育推進事業」

- 児童生徒の生活習慣の改善が課題となる中、生活ノートを活用した児童生の生活習慣の見える化や、ＰＴＡ食育講演会によりそれを振り返る機会を設けるなど、学校・地域・教育委員会が連携して取り組んだ事例（長野県）
- 児童生徒の食習慣や食事マナーに課題を抱える特別支援学校において、生産者の出前授業や地元の御当地キャラクターを活用した給食指導などを行った。これにより、児童生徒の食に関する関心を高め、食の自己管理能力の育成につなげた事例（三重県）

・生活習慣の改善を市全体の課題として捉え、家庭や地域をはじめ市民への働きかけを行った。また、学校内においても教職員全体の食育に対する意識向上を図り、学校全体で食育を推進することにより、児童生徒の生活習慣に変容が見られた事例（山口県）



「栄養教諭による食育授業」体験会

同1月29日（水）に、一般の方々を主な対象として、学校給食の意義や栄養教諭の役割等についての理解と関心の向上を図ることを目的に、石川県七尾市立七尾東部中学校の北出宏予栄養教諭による食育授業体験会を開催しました。

「健康な生活を送るために食事で大切なこと」について資料を読み取ったり、読み取った情報を伝えあったりした後、北出栄養教諭から栄養についての専門的な指導や、日頃の食生活を振り返る活動を通して、参加者のアンケートには「食育を通して知識が得られると、食に対する意識が変わるなと思いました。」「栄養教諭の理解を深める良い機会になりました。」などの感想が見られました。

食育授業体験会で意見交流する参加者

おわりに

今回紹介した取組や、全国の学校や教育委員会による本週間の様々な行事が、学校給食の更なる充実及び学校における食育の一層の推進につながることを期待しています。なお、本週間の取組の一部は、文部科学省ＨＰにも掲載していますので、是非御覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1299359.htm

みらプロ2020が始まります

文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課

みらプロ2020について

今般、文部科学省、総務省、経済産業省並びにプログラミング教育を推進する未来の学びコンソーシアムでは、企業と連携し、「プログラミングが社会でどう活用されているか」に焦点を当てた総合的な学習の時間における指導案等の提供を行う取組を「みらプロ2020」として実施することとしました。

小学校からの応募を受付中

2月18日より、小学校からの応募受付を開始しており、「企業訪問受入」「講師派遣」は3月19日で受付を終了していますが、「動画教材提供」については、4月13日（月）の12時まで受付をしています。

各企業等の取組（指導案等）の詳細や応募要件、応募方法については、みらプロ2020特設サイトに掲載しています。

■みらプロ2020特設サイト
https://mirapro.miraino-manabi.jp/

みらプロ2020における企業等の取組一覧

協力企業団体名	取組（指導案）のタイトル	実施形態	訪問場所／派遣先
Apple Japan, Inc.	プログラミングの基礎を学んで、地域の課題を解決するアプリケーションをデザインしよう	企業訪問	東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県
株式会社NTTドコモ	プログラミングを生かしてよりよい生活に	教材提供	—
グーグル合同会社	AIとプログラミングで、身近な課題を解決しよう	教材提供	—
佐川急便株式会社	私たちの生活を豊かにする未来の宅配便	企業訪問	東京都
株式会社しくみデザイン	自分の住む街の魅力を発信する案内アプリを作ろう	講師派遣	全国
積水ハウス株式会社	みんなの家！未来の家！	企業訪問	宮城県、茨城県、静岡県、京都府、山口県
Twitter Japan株式会社	地域の魅力を伝えよう！私たちの街大好きプロジェクト！	教材提供	—
株式会社ディー・エヌ・エー	地域の魅力発信アプリを開発して、商店街を盛り上げよう！	講師派遣	関東圏内
日産自動車株式会社	私たちの生活と、自動車の未来を考えよう	企業訪問	神奈川県、栃木県
日本郵便株式会社	私たちの生活を支える郵便局の仕事	企業訪問	全国398箇所
ひろしま自動車産学官連携推進会議	私たちの生活と、自動車の未来を考えよう	教材提供	—
フューチャー株式会社／ライブリッツ株式会社	スポーツとデータ分析。地域スポーツチームを応援しよう	教材提供	—
株式会社Preferred Networks	自動化の進展とそれに伴う自分たちの生活の変化を考えよう	教材提供	—
株式会社ポケモン	身近な人の仕事やゲームを作る仕事を学んで、私たちの未来やキャリアを考えよう	教材提供	—
本田技研工業株式会社	私たちの生活と、自動車の未来を考えよう	企業訪問	栃木県、三重県、香川県
ヤマトホールディングス株式会社	私たちの生活を豊かにする未来の宅配便	講師派遣	関東圏内
LINE株式会社	見つけよう 伝えよう わたしたちのまちの魅力	講師派遣	全国

みらプロ2019の実施事例について

令和元年度においては、令和元年9月を「未来の学びプログラミング教育推進月間」（みらプロ2019）と設定し、同様の取組を実施しました。

みらプロ2019の実施事例は、未来の学びコンソーシアムのポータルサイト「小学校を中心としたプログラミング教育ポータル」内の、実施事例「A分類」（総合的な学習の時間）に掲載しています。

また、みらプロ2019の概要動画と各実施事例の概要動画を、YouTube文部科学省公式動画チャンネルにて公開しています

■YouTube みらプロ2019概要動画

https://www.youtube.com/watch?v=u1vZYCguGiY&list=PLGpGsGZ3lmbCFlw1Ju6gVg476aLyCwHVp

みらプロ2019の概要動画

■小学校を中心としたプログラミング教育ポータル　みらプロ2019の実施事例について

https://miraino-manabi.jp/content/475

■文部科学省HP　みらプロ2019について

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00400.html

みらプロ2019における実施事例について

協力企業名	指導案名	実施学校名	学習活動名
Apple Japan, Inc.	プログラミングの基礎を学んで、地域の課題を解決するアプリケーションをデザインしよう	神奈川県横浜市立荏田東第一小学校	人と人をつなぎ、笑顔がいっぱいえだきん商店会
株式会社NTTドコモ	プログラミングを生かしてよりよい生活に	神奈川県横須賀市立浦賀小学校	e・URK（浦賀歴史活性化）プロジェクト
グーグル合同会社	AIとプログラミングで、身近な課題を解決しよう	東京都町田市立町田第三小学校	AI×スクラッチでどんなことができるかな
佐川急便株式会社	私たちの生活を豊かにする未来の宅配便	東京都足立区立大谷田小学校	私たちの生活を豊かにする未来の宅配便
積水ハウス株式会社	みんなの家！未来の家！	茨城県つくば市立みどりの学園義務教育学校	みんなの家！未来の家！
Twitter Japan株式会社	地域の魅力を伝えよう！私たちの街大好きプロジェクト！	佐賀県唐津市立高島小学校	高島学校えたいな・知りたいな
株式会社ディー・エヌ・エー	地域の魅力発信アプリを開発して、商店街を盛り上げよう！	神奈川県横浜市立戸部小学校	「とべまちアプリ*」で戸部のまちを盛り上げよう！
トヨタ自動車株式会社	私たちの生活と、自動車の未来を考えよう	愛知県岡崎市立男川小学校	自動車に搭載された技術と私たちの生活
日産自動車株式会社		東京都府中市立住吉小学校	自動車に搭載された技術と私たちの生活を便利にするプログラム
ひろしま自動車産学官連携推進会議		広島県広島市立藤の木小学校	自動車に搭載された技術と私たちの生活
本田技研工業株式会社		香川県まんのう町立仲南小学校	自動車に搭載された技術と私たちの生活を便利にするプログラム
日本郵便株式会社	私たちの生活を支える郵便局の仕事	東京都台東区立金曽木小学校	私たちの生活を支える郵便局の仕事
フューチャー株式会社及びライブリッツ株式会社	スポーツとデータ分析。地域スポーツチームを応援しよう	神奈川県相模原市田名北小学校	スポーツとデータ分析。地域スポーツチームを応援しよう
株式会社Preferred Networks	自動化の進展とそれに伴う自分たちの生活の変化を考えよう	茨城県鉾田市立鉾田北小学校	自動化の進展とそれに伴う自分たちの生活の変化を考えよう
ヤマトホールディングス株式会社	私たちの生活を豊かにする未来の宅配便	福岡県糸島市立一貴山小学校	私たちの生活を豊かにする未来の宅配便
LINE株式会社	見つけよう 伝えよう わたしたちのまちの魅力	京都府京都市立紫野小学校	広めよう私たちのまちのみりょく
リコージャパン株式会社	地域活性化のために、新しい表現方法で町を紹介しよう	山梨県富士吉田市立吉田西小学校	地域の魅力を発信しよう

みらプロ記者発表会を開催

文部科学省では、2月18日に「みらプロ」の実施に関する記者発表会を開催しました。みらプロ2020で新たに協力企業となった株式会社しくみデザイン、株式会社ポケモンから取組紹介が行われたほか、足立区教育委員会、鉾田市教育委員会から、みらプロ2019の実施事例の報告が行われました。

「みらプロ」の実施に関する記者発表会の様子

令和元年度「家庭教育支援チーム」文部科学大臣表彰式、全国家庭教育支援研究協議会を開催

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

文部科学省では、平成29年度より隔年で、特色ある優れた活動を行っている家庭教育支援チームに対し、その功績をたたえる文部科学大臣表彰を実施しています。今年度は、令和元年度「全国家庭教育支援研究協議会」にて表彰式を実施しました。

家庭教育支援の推進について

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子供の基本的な生活習慣や豊かな情操、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る上で、重要な役割を担うものです。

一方で、核家族化やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境の変化とともに、児童虐待や不登校など、子供の育ちをめぐる課題も懸念されており、保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、家庭教育支援の必要性・重要性は一層高まっています。

このため、文部科学省では、地域における子育て経験者や元教員など多様な人材による「家庭教育支援チーム」の組織化を推進するとともに、地域の実情に応じた家庭教育支援の取組を支援しています。

令和元年度「家庭教育支援チーム」文部科学大臣表彰

文部科学省では、特色ある優れた活動を行っている「家庭教育支援チーム」に対し、その功績をたたえる文部科学大臣表彰を実施しています。

今年度は、表彰チームとして決定した28団体に対する表彰式を、令和2年2月18日（火）文部科学省東館3階第1講堂にて、全国家庭教育支援研究協議会の冒頭に行いました。

萩生田文部科学大臣は挨拶で、「受賞した皆様のこれまでの取組に敬意を表するとともに、本日の研究協議会で各地域での課題や効果的な取組について協議を深め、その成果を今後の活動につなげていただきたい」と期待を述べました。

また、受賞チームを代表して挨拶された坂井市家庭教育支援チーム（福井県）は、「家庭の中で、親が子にかける真実の愛情が我が子を育てていくことは、時代がどのように変化しても色あせていくことはありません。今後も保護者の子育てに関する悩みや苦労に寄り添い、家庭とその子供の成長を支援してまいります」と活動における今後の抱負を語っていただきました。

萩生田文部科学大臣による挨拶

受賞者代表挨拶　坂井市家庭教育支援チーム（福井県）

令和元年度「全国家庭教育支援研究協議会」

表彰式終了後、引き続き令和元年度「全国家庭教育支援研究協議会」を行いました。

今年度の研究協議会は、自宅や学校、乳幼児健診など、保護者の居場所に出向いて、寄り添って行う支援の手法であるアウトリーチ型支援の普及・定着に向けて、その実施方法や意義を協議しました。協議に先立ち、アウトリーチ型支援の好事例をもつ6自治体（茨城県、山口県・岩国市、北海道釧路市、大阪府泉大津市、和歌山県湯浅町）より、具体的な取組事例について報告していただきました。

その後、事例報告の内容を深めるため、一般社団法人家庭教育支援センターペアレンツキャンプの水野達朗代表理事にコーディネーターを、国立大学法人東京学芸大学の松田恵示副学長にアドバイザーを務めていただき、事例報告を行った自治体関係者をパネリストとして、アウトリーチ型支援の具体的な手法や課題について、パネルディスカッションを行いました。

受賞者による集合写真

パネルディスカッションの様子

最後にワークショップを行い、参加者が所属や地域の異なるメンバーで構成されたグループに分かれ、パネルディスカッションでの議論を参考にしつつ、「なぜ？」「どうやるの？」「何に気をつけるの？」と順序立てて、支援の必要性や実践方法について検討しました。

研究協議会終了後、参加者からは「全国各地の参加者と意見交換ができた」「具体的な考えや行動がイメージできた」「地元で実践したい」等の意見をいただき、各地で取り組むアウトリーチ型支援の一助となる良い機会になりました。

ワークショップの様子

（参考）
令和元年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/mext_00082.html
令和元年度「全国家庭教育支援研究協議会」の開催
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/1422711.htm
子供たちの未来をはぐくむ家庭教育
http://katei.mext.go.jp/

生涯学習のマスコット
マナビィ

文部科学広報

文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学広報　令和２年３月号　No.244

（発行・著作）
文部科学省大臣官房総務課広報室
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
TEL：03-5253-4111（代表）
URL：https://www.mext.go.jp/
E-mail：mextjnal@mext.go.jp